

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

奄美市まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

鹿児島県奄美市

### 3 地域再生計画の区域

鹿児島県奄美市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 【地域の現状と課題】

奄美市は、鹿児島県本土と沖縄のほぼ中間に位置し、大小8つの有人島からなる奄美群島の拠点都市である。海岸線には、亜熱帯の美しいサンゴ礁の海が広がり、内陸部にはアマミノクロウサギやルリカケスをはじめ、貴重な希少動植物が棲息する深い森など、豊かな自然が身近に存在している地域である。これらの貴重な自然を保護し「奄美の宝」として後世に引き継いでいくため、本市を含む「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録を目指している。

しかしながら、本市の人口は昭和60年の60,455人（旧名瀬市、旧住用村、旧笠利町含む）をピークに減少しており、43,156人（平成27年国勢調査結果）まで落ち込んでいる。住民基本台帳によると、2020年12月には42,628人となっている。国立社会保障・人口問題研究所（平成29年推計）によると、令和42年の人口は17,596人と平成27年比で59.2%減少することが見込まれている。

奄美市における自然動態は、平成12年頃まで上下動を繰り返し自然増であったが、その後の出生数の低下及び死亡数の増加の傾向が双方に拡大し、直近となる平成26年から平成28年にかけての3年間は▲250付近を推移している。これは奄美大島の約半分を占めている。「死亡数」をみると、平成22年以降に急激に600人台を超えて増加しており、傾向が奄美大島においても表れている。「出生数」をみると、平成10年頃は500人台で推移していたものが、平成21年に400

人台を下回り、「死亡数」の分岐点となった平成 22 年頃とほぼ時を同じくしたことで、「自然動態」が▲200 を超える新たな段階へと移行している（2020 年には 299 人の自然減）。

社会動態をみると、転出者が転入者を上回る状況が続いており、2020 年は 379 人の社会減となっている。

このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、本町の基幹産業である製造業・本場奄美大島紬産業の衰退に伴い、雇用の機会が減少したことで、若者が市外へ流出（社会減）したことなどが原因と考えられる。

このまま人口減少が進行すると、地域産業の衰退や地域コミュニティの弱体化といった課題が生じる恐れがある。

## 【基本目標】

上記の課題に対応するため、市民の結婚・出産・子育ての希望の実現を図り、自然増につなげる。また、移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や地位を守り活性化するまちづくり等を通じて、社会減に歯止めをかけたい。

「しあわせの島」＝人々が暮らしたい島＝「一定程度の人口を維持できる島」と位置付け、「奄美大島人口ビジョン 2020」等に基づいて、2060 年の奄美大島の将来目標人口を 52,600 人（参考：うち奄美市 36,400 人）としている。

本市は、伝統工芸品である大島紬や黒糖焼酎などの地域資源を活かした地場産業や、シマ唄、八月踊りに代表される伝統文化など、これまで長い時間をかけて育まれてきた貴重な宝を有しており、本市のさらなる発展の原動力になるものと期待されている。

現在、豊かな自然環境と古き良き伝統文化を大切にしたまちづくりを進めており、「自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷（しま）」を将来像に位置づけ、「地域に誇りを持てるまちづくり」、「人づくりを中心とするまちづくり」、「また訪れてみたくなるまちづくり」、「自然と共生するまちづくり」という 4 つの基本姿勢をまちづくりの基本理念とし、「経済的に自立した島」「子育てに適した島」「皆が知恵を出し実行する島」「豊かな自然と伝統を守る島」を目標に、市民と行政が一体となった新たなまちづくりを目的とする。取組の推進に当たっては、次の項目を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- 基本目標 1 経済的に自立した島
- 基本目標 2 子育てに適した島
- 基本目標 3 皆が知恵を出し実行する島
- 基本目標 4 豊かな自然と伝統を守る島

### 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	地域経済循環率	71.0	75.0	基本目標 I
ア	市民一人当たりの所得	2,178 千円	2,293 千円	基本目標 I
イ	毎年の出生数	295人	295人	基本目標 II
ウ	市内青年団員数	50名	50名	基本目標 III
エ	地域の伝統文化に参加・ 体験した児童生徒の割合	-	98.0%	基本目標 IV
エ	天然記念物のロードキル 発生件数	10 件	0 件	基本目標 IV

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する  
特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

奄美市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 経済的に自立した島事業

イ 子育てに適した島事業

ウ 皆が知恵を出し実行する島事業

エ 豊かな自然と伝統を守る島事業

## ② 事業の内容

ア 経済的に自立した島事業

経済的に自立した島では、過度に公共投資に頼ることなく、外貨を稼ぐ基盤産業が地域に根付き、それに伴うサービス業等が発展していくことで生産性が向上し、一人ひとりの収入増に繋がる。加えて、地域内での資金循環を促進し、地域経済が好循環していく島を目指す。

**【具体的な事業】** 観光関連施設整備事業、奄美満喫ツアー助成事業 等

イ 子育てに適した島事業

赤ちゃんを見るとついつい我が孫のように話しかけてくる大人がいることや悪いことをしたら、見ず知らずの大人から叱られること、そして、自分を思ってくれる大人は、誰もが自分の「兄、姉」であり、「おじ、おば」であることが島で育つ子どもたちを取り巻く環境である。豊かな自然の中で、このような環境で子供たちを育てたいと思う若い世代も多くいる。今後、さらに、島で出逢い、子供を産み、育てていくために必要な支援を充実させていくことで、やりがいのある仕事をしながら笑顔で子育てができ、子供がいきいきと健やかに心豊かに育つ島を目指す。

**【具体的な事業】** 子ども医療費助成事業、高校生遠距離通学費補助事業 等

ウ 皆が知恵を出し実行する島事業

島が活性化していくためには、そこに住む住民が積極的にその実現に関わって行くことが重要である。市民一人ひとりが奄美大島の一員であることを自覚し、自分の住む集落が、まちが、島がしあわせになるためにはどうするかを考え、知恵を出し自らが立てた「役割と目標」をベースに実行する島を目指す。

**【具体的な事業】** 地元高校魅力アップール支援事業、奄美市離島留学推進事業  
等

## エ 豊かな自然と伝統を守る島事業

本市に生息する希少な動植物をはじめとする貴重な自然を次世代に受け継ぐこととは世界の人々から奄美の人々に託された使命である。また、豊かな自然と歴史が育んできた伝統文化は、奄美の独自性であり、経済的に自立した島になるための重要な資源である。この資源を次世代まで受け継ぐため、市民一人ひとりがこの豊かに自然と伝統を守る島を目指します。

**【具体的な事業】** 希少野生動植物保護事業、奄美市世界自然遺産及び国立公園サブ拠点施設等総合整備事業 等

※ なお、詳細は奄美市「攻め」の総合戦略2020のとおり。

### ③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

### ④ 寄附の金額の目安

200,000千円（2021年度～2024年度累計）

### ⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

#### 【評価の手法】

事業のKPIについて、奄美市総合戦略会議委員により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて事業手法を改善することとする。

#### 【評価の時期及び内容】

毎年度の事業終了の翌年度10月に外部有識者（奄美市総合戦略会議）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針及び事業執行等に反映させる。

#### 【公表の方法】

目標の達成進捗状況については、検証後速やかに奄美市公式WEBサイト上で公表する。

### ⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

### 5-3 その他の事業

該当なし

## 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで